

令和元年度第3回理事会議事録

日 時： 令和元年9月28日（土曜日）14:00～
場 所： 岩手医科大学付属病院 循環器センター3階 会議室
出席者： 行森良一 菊池英岳 畠山秀樹 川村将史 高橋一博
宮本祥一 熊谷正邦 高橋庸一郎 村上美月 小野寺絵美
岡田進 井上幸男 下川波歩 山崎勝登志

はじめに（行森）

医大のほうも矢巾に移り本格的に稼働しつつありますが、現在のところ患者が少なめで慣れる意味では良いのかなという感じで、病棟の稼働率は昨日の時点で23%でありこれから多くなりますが、今後とも内丸と矢巾のほうをよろしく願います。

I. 報告事項

令和元年度 北日本支部幹事会について（行森）

今回福島県郡山市で開催された幹事会について議事録の概要記録を見ながらの説明があった。

議題として

令和元年度の学術活動、支部研修会等について、令和2年9月26・27日北海道の臨床検査技師学会が追加されたことが報告された。

学術部門員の変更について、今週末に北日本の幹事会があり最終決定となる。他の県で修正があるかもしれないが、岩手県の内丸と矢巾に別れた部門長の変更届は提出済みである。最終決定したものについては次回の理事会で報告予定である。

令和2年度 第69回日本医学検査学会について、各県毎の抄録エントリー依頼数について岩手県は最低限10演題ということで各地区（盛岡地区4題その他の地区2題）に提出していただくこととした。演題エントリーは9月1日から11月1日まで。北日本からの一般演題目標数は180題である。また宿泊場所の確保が困難なため早めの予約が必要とのこと。スキルアップ研修会、特別講演、超音波ハンズオン、教育講演13題、シンポジウム13から14題予定している。

第8回北日本支部医学検査学会について、来週開催されるが居鶴山技師会長からの報告があり一般演題は104題で座長は振分けし各道県に事務局でお願いしている。プログラムは来週はじめに各施設に到着予定。今回岩手県からは1題のみのエントリーで開催県山形は30演題（全演題数の29%を占めている）ということで、来年の開催県としては30前後の演題を目標（全演題数は100題を

目標)とし、来年日本医学検査学会が北日本で開催されることもあり若干エントリーが少なくなることが予想されるので今のうちから声掛けをしていただきたい。

令和元年度初級・職能開発講習会について、既に昨年岩手県で開催されたが今年度は青森県で開催されることが決定した。

学術部門体制について、宮城県の藤巻技師会長から支部研修会の北海道と東北の分離開催についてと支部の部門長の選考についての議題提示があり、支部の部門長に関して長年同じ方が部門長をすることによって運営がうまくいっていないということが取り上げられており、選考について来週開催される幹事会で意見集約をするということである。研修会の参加者名簿について、学術部長が開催県別、参加道県別で作成することが決定した。

II. 各事業について

1) 総務部(菊池)

毎年登山の計画をしておりましたがなかなか予定が立たず、今のところ 1 月 13 日あたりに陸前高田の氷上山(沿岸は雪があまり降らなく降っても落ち葉の上にサクッと降る程度で、氷上山は初級者でもいける山です)を予定している。

2) 学術部(畠山)

11 月 17 日に岩手県医学検査学会があり、抄録集作成も進んでいる。

精度管理事業も例年通り実施する。研修会等行事も活発に行っている。

3) 公益部(川村)

9 月 8 日に大腸がん啓発予防活動としてあっぴりレーマラソンに参加した。天候もよく 20 名弱の参加で今年はブレイブサークルより大腸がんの検診について書かれているトイレットペーパーを 100 個購入し配布した。配布した感想として『大腸がん検診をしています』と言う声が聞かれ、大腸がん検診は県民の方々に浸透してきている感じで良かったと思われた。成績については例年 90 位や 100 位くらいであるが今年度は都臨技からの参加者がおり 30 位くらいと速かった。

11 月 3 日に検査と健康展をコープ一関コルザで開催する。磐井病院の技師と研修医の先生に来ていただき検査説明をおこなう。現在南部地区の皆様にはスタッフ募集をかけている。盛岡地区から理事の方々に出席できるかどうか本日確認する。(基本南部地区のスタッフがメインで無理に業務調整はしなくても良いです)アナウンスとして地域の広報に掲載させていただくのと 10 月 22 日一関のラジオで午前中 PR 放送を予定している。一関市と一関医師会から後援が

とれている。コープー関コルザの1階スペースを拝借するが前回の会場より縮小されるためわんこ兄弟の脱衣は外にテントをたてて行う予定。また、どの施設に行ってもパーテーションがなく、検査説明の際ついたてが必要であることと、ラミネートした資料を添付できるということでパーテーション(診察室にあるような布製の)を5個購入した。今回肺年齢測定器はフクダ電子から2台(1台10,000円)借りることにした。血糖測定器は5台、オリンパスの顕微鏡を使用。南部地区の提案で高血圧予防(減塩食等)のブースを設け、生協にある減塩食品はどのようなものがあるかを展示する予定。スペースが狭いが大丈夫かどうか来週会議に行ってくるので会場を下見してくる。事務局に健康展のパンフレットとクリアファイルとポスター系のものが届いている。(川村公益部長あとで確認)

4)生涯教育(宮本)

10月いっぱいまでの登録されている研修会は17件で昨年は28件であったので少なくなっている。日臨技の助成をもらえる研修会は10月いっぱいまでで9件で昨年は13件登録されていたのでまだまだ余裕がある状態である。各地区の勉強会や各部門の勉強会が去年までであれば2回目くらいまで終わっているところが多かったが、今年はまだ1回目のところが多い。他県支部や他県開催の研修会は結構ホームページに載っているが、岩臨技主催の事業は昨年と比較すると少ない。(盛岡地区2回と病理くらい)部門長や役員の交代もありうまく進んでない可能性があったので今後がんばって検討するように。ただ期間が決まっているので、会が集中してしまう可能性が否めないで、できるだけ内容の重複はしないようホームページや学術部門長なりに確認しながら内容について検討し申請をサイボーズにあげていただくと随時登録していくので協力のほどよろしくお願ひしたい。

5)事務局(下川)

日臨技の精度保証施設認証制度について、申請可能な県内の施設一覧が届いている。ぜひ認定を取得してくださいというもので、日臨技の外部精度管理を一定基準満たしていると申請できる。日臨技としては出来るだけ取得するようにということであった。登録方法は9月中旬よりJAMTQCからダウンロード可能である。

災害派遣技師研修会について日臨技で企画しており12月14(土)・15(日)に開催される。推薦とかではなく、申し込み方法は個人で行う。次回の会報発送に同封するが、申し込み締め切りが10月31日であり、締め切り間に合うかどうか微妙であったので今回資料として提示した。

令和1・2年度検査研究部門部門長・各地区の部門員名簿について、三陸地区の確認がなされていないようなので、サイボーズのエクセルファイルに訂正箇

所を赤字で修正してコメントを載せていただければと思う。

パソコンを新しくリース契約させていただいた。2台5年契約で8,350円/月。

6)その他

- ・第24回岩手県医学検査学会の進捗状況について(高橋(庸))

抄録は印刷会社を設定するにあたり4社から見積もりをとり、単価や仕上がり速度から北上プリントに依頼することとなった。一部の単価は350円から400円、毎年600部印刷するので、計210,000円から240,000円になる。ちなみに昨年は一部が450円で計270,000円であった。

抄録についての説明

抄録表紙にありますように北上市と北上医師会より後援をいただいている。

会長挨拶の文面ですが、会長に渡した内容に不備があり、国立天文台水沢のあとに「VLBI観測所」が入るのが正式名称とのこと。

館内案内図について、1階に飲食可能スペースを設け、和室は定員45名程度、飲食可能区域(カフェ)は20名程度になっている(昼食はここでとっていただく)。2階に上がると広いスペースがあり機器展示を予定(5社)講堂は定員243席、会議室は実行委員の控え室になる。

駐車場について、第一駐車場は127台収容であるが不足に備えて第2駐車場(約40台収容)として創価学会の駐車場を借りられるかどうか連絡をとる予定。借りることができたならば実行委員の車は第2駐車場へ置いてもらう。第1駐車場からあふれた車は第2駐車場へ先導し置いてもらう予定。

学会日程について、受付開始が9時30分からとなっており実行委員は8時45分までに会場の前に集合(会館は9時00分)し会場の準備をする。前日の15時より会議室を押さえているので準備できるものは前日に準備しておく。17時までしか講堂を利用できないので遅くとも16時30分には撤去予定である。

一般演題は午前および午後の部各4題。1題につき発表7分質疑応答3分計10分で進行していく。午前中のうちに技術セミナーを開催し1社につき30分から35分程度でデンカ生研(株)：感染症や対策についてとアボットジャパン(株)：AI関連で診断支援システムについてお話していただく。またこの2社からお弁当を出してもらえることになっている。10月11日振り込み期限ということで岩臨技の口座に振り込むよう請求書を発送している。お昼は4枚つづりのチケットの1枚が引換券になっているのでお弁当と交換する。

公開講演にともない国立天文台からもっと多くの方々を知っていただきたいと広報活動を行って欲しいということで10月25日か11月8日の北上広報誌に掲載していただくことになっている。またポスターを作製し北上市や奥州市の市役所や図書館、スーパー、百貨店、各病院に掲示してもらう予定。田崎さんに謝礼として30,000円お渡しするがお金は中部地区で準備し、封筒は事務局

で準備する。社名一覧の掲載について、機器展示(5社)は20,000円、広告掲載(14社)は10,000円の協賛金をいただき掲載ページを分けることにした。現在準備の段階で中部地区運営費より90,116円支払っているが岩臨技から入金確認した際もどし運営の準備をしていく。

抄録はまだ編集途中であるので見直しをかけ、来週くらいに印刷会社に持っていき印刷してもらい確認する。講演会のポスターはすでにデータが出来ており印刷会社に頼まずプリントアウトする。(中部技師会→中部地区技師会へ修正)受付にはパソコン2台とバーコードリーダーを使用するので延長コードを準備する。ドラムコードが技師会に3台あるのもしもの時使用する。展示の機器は学会当日に搬入する。

- ・第8回北日本支部医学検査学会視察について

参加者は行森会長、菊池副会長、畠山副会長、高橋常務理事、宮本理事、下川事務局長、舘野生理部門長、柴田病理部門長。金曜日に行き土曜日の朝早くから視察をする予定になっているが、見るところとして、受付関係や演題発表、懇親会、式典がメインでその他、特別講演、教育講演があるが視察担当の振り分けを事務局にお願いする。最近の傾向として若手技師の企画が好評を得ており今回の山形での学会でも取り入れられている。岩手でもこのような企画を取り入れていかなければと思われる。学会前日の準備の視察は事務局に確認し了承を得ており、顔合わせ程度に挨拶する。参加費・交通費・ホテル代の領収書を事務局に提出してもらい精算する。また本来は日当が発生するが懇親会に全員出席していただき(次年度開催地の紹介挨拶があるので)懇親会費に日当をあてると感じる。

- ・第9回北日本支部医学検査学会について

メインテーマを『融和と協調』とした。融和と協調の内容はホームページ上で表示させ、抄録にも掲載するので理解していただけたらと思う。サブテーマとして『じえねしす発端・じえねらる幅広い知識・じえねれいしよん世代』をつけるがレイアウトに関しては山田プランニングに依頼してみる。

山田プランニングからアイーナの10月16・17・18日の会場を押さえてもらい、税込み1,097,210円を今月中に振り込みしてくださいということだったので、学会名の口座を作り2,000,000円岩臨技から前受けで入金し、学会口座からアイーナに入金を済ませた。また来週の視察分の費用はこの口座より引き出す。学会の会計について、現在の会計は2名とも初心者なので前任者にサポートとして入っていただく。(メインは現会計)

特別講演に来年臨床検査医学会の全国大会が岩手で開催されるため忙しいとは思われるが諏訪部先生にお願いしたい。公開講演はどういうものにしたいか各自考えておくように。他職種とのパネルディスカッション等の企画も検討し

ていきたい。

- ホームページについて

来年のホームページ更新に向けて(株)ピーぷると宮本理事と畠山副会長とで相談した。現在レイアウト案を作成するためにカテゴリーのところを整理したところなのでそれをもとに(株)ピーぷるで原案を作成していただいている。年内には提示できる予定である。

- 研修会場の明記について

今後部門ごとの研修会場に岩手医大を使用する際『岩手医科大学』にしてしまうとどちらで開催されるのかわからなくなってしまうので施設名称を細かく明記し住所も載せていただきたい。

- サイボーズ権限について

内容は設定の契約であるので、面倒でなければ川村常務理事から事務局に引継ぎをおこなう方向ですすむ。

- 検査と健康展の会計について

事務局より前受け金として一括で 500,000 円を渡し事業内容をサイボーズのエクセルファイルに入力し、全て終わったなら領収書と残金を戻していただき事務局で会計ソフトに入力する方向でお願いできないか提案があった。

→前受け金は公益担当者に現金で渡すか口座をつくり入金するかどうかになるが、組織の口座作成は厳しくなっていており、様々な書類や審査が必要である。

→口座からお金を引き出すためには度々銀行へ出向かなければならないので現金で渡すほうが良いのではないか。

→今回、試みとして現金を渡す方向でお願いする。

- 岩手県医学検査学会の会計について

岩手県医学検査学会事務局下川名義、岩手県医学検査学会事務局印で登録した岩手銀行の通帳があるので、次の医学検査学会担当地区に残金を 0 円にして渡しそこに岩臨技から例えば今年であれば前金として 500,000 円を振込み、学会会計担当者に報告書をあげてもらい最後に報告書と領収書と残金を返してもらおうという方向で事務局と高橋(庸)さんと話をしていた。印刷製本支出(学会活動支出のなかにある)に抄録集と冊子医学検査が含まれ 400,000 円計上されているため、一緒に使う必要があり抄録集の費用に関してあらかじめ岩臨技から直接渡し広告費については後程岩臨技に振り込んでいただくことになっている。

- 精度管理事業の会計について

あらかじめ 200,000 円を渡し、あとで領収書と収支報告書で返してもらっている。